



2020年6月 会報 厚木ワイズメンズクラブ 第186号

主 日下部クラブ会長 楽しく 気長に じっくりと  
 湘南・沖縄部部长 ワイズを社会に広める基盤の再構築をする  
 東日本区理事 勇気ある変革, 愛ある行動  
 題 アジア太平洋地域会長 Action!  
 国際会長 より良い明日のために今日を築く

厚木クラブホームページ:  
<http://ys-atsugi.jimdo.com/>



「ソーシャルディスタンス」

日下部 美幸



日本語に訳すと「社会的距離」というのだそうです。2月頃から新型コロナウイルスが猛威を振るい始めるとスーパーやコンビニのレジの前には足形が置かれて混雑しないように人との距離をあけるように沈黙の規制

がなされるようになりました。近寄り過ぎると感染の危険があるからで咳なら2mぐらい飛沫が飛ぶので、空けるのがマナーなんだそうです。「人と人」が支え合ってこそ社会が成り立つ、悩み事があると親しい友人に電話をかけて(少しでも無関心なそぶりをみせようものなら)「こんなに苦しんでるんだから・・・」と少々どころか大いに端迷惑な人間関係を構築してきた私はドキッとしました。美德とまでは思わないまでも親しくなるためには境界線を越す事も大事と思っている節もあって、日本人には向かないのではないかと密かに思ったりもしました。ところが次にショックだったのが「濃厚接触」という訳の分からない言葉でした。もともとハグしたり、人前で接触を恥と思う文化の日本人にはこの言葉は隠微な淫らな響きさえ感じて、ニュースで流れるのは憚られるイメージさえあったのに、中身をきいてソーシャルディスタンス内の接触を指すのだと分かった時これも日本文化にはそぐわないと思いました。

日本人はもともとまじめで決められたことを守る性格であるせいや発酵食品が免疫力をあげているのか犠牲者も他国に比べて少ないし、工夫を凝らす民族であるのでいつか元気に日常をとりもどせる日がきつくとくる信じています。ただ、「ソーシャルディスタンス」つかず離れずの感覚は大事だと思います。ワイズとYMCAとの関係も然りではないでしょうか? 支えたい、力になりたいは気づかない内に中に入り込み過ぎていることもあったような気がしています。

話はそれますが、我が家の玄関には柿の木の下に自転車一台置ける程の土地があります。そこに雑草が生えて生えて困ってました。毎日百本抜くの自分のノルマにしたのですが雑草の方がうわてで気がつく負けていました。ある日、これでどうだとばかり熊手で土を耕してしまいました。次男に「雑草にとって最高の環境を与えた」といわれましたが、しばらくの間は雑草はなりを潜めておりました。

春になりその猫の額程の土地に何が生えてきたと思われませんか? まさかまさかの苔です。種類はわかりませんが薄緑色の美しい苔です! 「千代に八千代に」って「苔の結まで」エーっ、こんなに簡単に苔むしていいのかしらと、独りほくそ笑んでいます。ああ、コロナウイルスもエイヤッと退治したら、人間にとって有益物質に変わってくれるといいのにと苔を愛でながら勝手な妄想を膨らましています。

ご挨拶

4月より厚木YMCAに着任いたしました、阿部正伴です。

横浜YMCAに入職して28年目、7ヶ所目のYMCAとして初めて厚木YMCAでの活動となります。

例会データ	4月	在籍会員	16人
会員	0人	メイキャップ済み	0人
ビジター	0人	出席率	0%
ゲスト	0人	ロバ	
合計	0人		0円



厚木 Y M C A が地域に根ざす Y M C A として、これまで以上に地域のみなさんに必要とされる場となるよう、微力ながら頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

先月号の 15 周年記述に関連してワイズと Y M C A について田口ワイズの個人的感想を含めて投稿を頂きました。少し前の投稿ですが内容を見直していただきました。

## 厚木 Y M C A 横浜 Y M C A の略歴と行事活動の原点を探る

厚木クラブ田口堅吉

**はじめに:**1985 年厚木 Y M C A 会館はエレベーターなしの 5 階建てビルでしたが時代は急速に変わり、健康福祉専門学校の教室であった 4 階、5 階でも障害者プログラムや高齢者支援のプログラムが始められ、多くの障害者や高齢者が会館を訪れるようになり、これらの人々に是非エレベーターをとの専門学校生等の熱心な要望、共鳴する先生や多くの人からの寄付もあり 2000 年 8 月エレベーターが竣工、Y M C A の高齢者福祉に取り組む姿勢の具体的な表現として多くの人に知れ渡ったと当時の新聞は伝えている。来訪するたびに漫然とエレベーターを利用していた私でもその事を知り、エレベーターに乗る度に厚木 Y M C A の福祉への熱い思いを肌で感じるようになりました。

そんなわけで厚木 Y M C A 横浜 Y M C A に連なる私ども、Y M C A の年行事、活動がどういう思いで始められていたのか、どんな成果をあげているのかを知られば協力への思いが一層熱くなるのではないかと思います。「横浜 Y M C A 120 年史(2010 年発行)」と「厚木 Y M C A 設立小誌(2004 年発行)」から拾ってみました。ですから日本語学校や子ども食堂など比較的新しい活動については例会で Y のスタッフの方々から聞くことにしてはと思います。

☆横浜 Y M C A は 1884 年(明治 17 年)横浜海岸教会で誕生、当時の主たる活動は廃娯運動だった

☆1910 年(明治 43 年)横浜市常盤町に会館設立、英語

学校、体育部が活況を施す。

☆1923 年(大正 12 年)関東大震災 震災救援藩の活躍、迫害に苦しむ朝鮮、中国の人々への慰安。

☆1930 年(昭和 5 年)大阪神戸に続く 3 番目の横浜ワイズメンズクラブ誕生。

☆1932 年(昭和 7 年)横浜 Y M C A 全国 2 位の隆盛を誇る。

☆戦争の苦難を舐め、横浜大空襲にも被災を免れたが、進駐軍に接収され間借りぐらし。

☆1949 年(昭和 24 年)会館の一部返還、1952 年(昭和 27 年)全面返還される。

## 戦後 Y M C A の活動

☆1985 年 2 月厚木 Y M C A が横浜 Y M C A 創立 100 周年記念事業として設立され、県央の中心都市厚木市に到来する少子高齢社会でのそこに住む人々に自己啓発の機会を提供するとともに福祉事業従事者の育成を目指す健康福祉専門学校が 4 月開校した。

☆フィットネスからウェルネスへ 横浜 Y M C A は会館建設当時から体育館を備え、市民スポーツの普及を図ってきたが。それは心と体のバランスのとれた成長を図るフィットネスの運動理念を基としたものだったが、85 年頃さらに発展的な考え方がアメリカから伝えられてきた。それは単に肉体的な健康を目指すだけでなく Y M C A の目指すスピリット、マインド、ボディの総合的なバランスのとれた成長を目指すもので 1985 年 Y M C A はウェルネス・トータル・システムを導入。

☆Y M C A チャイルド・ケア・センター「ホサナ」1989 年厚木 Y M C A 向かいの高島ビルに従来からの託児としての保育ではなくウェルネス理論に基づいた健やかな体と豊かな成長を目指して設立された。

☆A I D S 問題 1994 年以来「エイズ文化フォーラム」の事務局を横浜 Y M C A が引き受け開催されており、厚木 Y M C A は 2005 年以来県の要請を受け、神奈川県 HIV 即日検査センター会場を提供している。

☆災害ボランティアセンター 1995 年 1 月 17 日の阪神淡路大震災を契機に災害時に円滑なボランティア活動を行えるよう 1996 年「横浜災害ボランティアネットワーク会議」が設立され、厚木 Y M C A は厚木市災害ネットワークに加わり、災害時におけるボラン

ティア活動を考えるシンポジウムやボランティアコーディネーター養成講座に協力している。

学習障害児（LD 児）への取り組み 1994 年横浜 YMCA は全国で初めて「LD 児のための水泳教室」を開催、その後も事業は順調に発展し横浜 YMCA 傘下の厚木 YMCA を含む多くの YMCA で行われるようになっていく。

☆ YMCA 福祉スポーツ研究所 1997 年 厚木 YMCA 内に設立され、障害者、高齢者、中高年を対象に健康と医療を総合的に考えて福祉スポーツの新しい展開を図った。（苦境時解散と記憶）

☆1995 年前後横浜 YMCA の苦境 一時は稼ぎ頭だった予備校事業の衰退、18 歳人口の急激な減少による専門学校への伸び悩み、少子化による幼児、小学生の参加者の減少、さらには多額の設備投資がなされたが、時代の変遷に適切に対応しきれず芳しい結果は得られず、事業の縮小と教員の早期優遇退職者募集という未曾有の最悪事態になり 1997 年吉村総主事の辞職、1998 年熊本 YMCA の 山根総主事を迎えた。

**山根総主事の指導その 1** 職員は懸命に働いているが事業運営に必死に取り組むあまり YMCA が本来的に果たすべき使命を働きの中心に置くという認識が必ずしも十分ではないと見て 1998 年 4 月 1 日就任挨拶で職員に今やっている仕事が本当に必要な仕事かどうか一度やめてみたらどうなるかという視点で見直すこと（スクラップ・アンド・ビルド）またやるべきことがやられていないか検討するよう要請し、終わりに職場ではお互いに役職ではなく名前に「さん」をつけて呼び合うこと、例えば山根を呼ぶ時は「総主事」ではなく「山根さん」と言って欲しい「YMCA の世界がお互いが人格と人格を触れ合わせながら仕事をしていくところになって行って欲しい」とこの願いはやがて自由闊達な発言が会議や意見交換の場面で見られるようになって徐々に実を結んでいき 1998 年年度資金に余裕が生まれ借入金の返済に充てられた

**山根さんの教えその 2** 厚木クラブ設立の準備が進んでいるころ厚木 YMCA を訪れると、入館するや行き交う職員や専門学校の皆さんから「こんばんは」と挨拶され。なんと「アットホームな YMCA だろう」と感心したものでした。山根さんの教えだというこ

とでした。厚木 YMCA に通う人々が挨拶を交わし合う明るい雰囲気を取り戻したいと思うのは私一人でしょうか。入館したら行きあう人々に是非親しい声をかけていただきたいものです。

☆山根さんの教えその 3 前にブリテンに載せたお話ですが、西日本元理事森本さんから伺ったお話「ワイズの関係で西日本の YMCA を歴訪していた時の事です。熊本 YMCA を訪問、山根聡主事は前の会議が長引いてお会いする時間が少し延びることになり、エントランスで待っていた時、通りがかるスタッフ、生徒さんが見ず知らずの私に「こんにちは」と挨拶をしてくれました。これは今までにないことでしたからびっくりしました。帰ってこの感動お総主事に手紙で申し上げましたところ、「私の指導で行われているマナー訓練の結果」とのお返事を頂きますます感動しました。

☆保育事業への進出 少子化時代を迎える保育園の必要性が多くの人に認識されるようになり 1998 年横浜市は横浜市で保育園を計画するものに私有地を無償貸与すると広報で知った横浜 YMCA は市に私有地貸出申請書を提出願いを提出、願いは叶えられ 99 年 5 月 8 日 YMCA 戸塚保育園開園

### YMCA の保育事業の方針

（子供）私たちは一人ひとりの子どもが愛されていると感じられるように保育をしていきます。

（家庭）私達は家庭と手を携え子供の成長を共に喜びあえる保育をしていきます。

（地域）私たちは地域の人々とふれあい、連携して保育をしていきます。

保育園運営その後 10 年で 12 の認定保育園、職員数約 220 人を運営するまでになる。

現在保育園数もさらに増え、職員数約 400 人とお聞きしております。

☆厚木 YMCA 保育園ホサナ 保育園の認可規制が緩和されたこともあって 2003 年チャイルド・ケア・センター「ホサナ」が一部施設を手直し、定員 60 人の認可保育園となった。

☆学童保育（アフタースクール） 定義：働く親の子育て支援を主たる目的として横浜 YMCA が自らの施設で学校を特定せず地域在住の小学生を預かり、独自に展開する事業で一部行政からの補助金も得て実

施するもの。厚木 YMCA 学童クラブは「鮎の学校」の呼び名で行われており、横浜 YMCA 全体では9箇所合計約400人の学童が通っている。

★富士山 YMCA 長年の横浜 YMCA の夢であったキャンプ場(野外活動施設)は2007年5月19日待望の献堂式が行われた、施設建設費の約半分1億4000万円が寄付によるもので施設名は「富士山 YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジ」と地球環境を大切にしていくなかで拠点として命名され、建設費施設建設費として借り入れた5億円も完済されている。

★その他

△Y-Y's 協議会 1998年度よりワイズの活動とYMCAの活動を相互に理解し、協働関係を密にし、YMCAのサービスクラブとしてのワイズの働きを強めるために3ヶ月に1回ワイズクラブ会長と役員、YMCA総主事とクラブ担当主事が出席して開催し、クラブ同士の活動状況を把握 YMCA 行事へのクラブの支援などについて活発な協議が行われてきた。

△インターナショナル・チャリティラン 1998年9月26日横浜の景勝地「臨港パーク」で第1回がYMCA賛助会(横浜にある有力企業が多く加入)、ワイズメンズクラブ他のボランティアの協力のもとに成功裏に行われ今日に至っている。募金は毎回600万円以上維持しておりYMCAの福祉活動に全額用いられている。寄付文化の根付くアメリカのYMCAでは地域活動の資金は寄付によって賄われているようですが、我が国ではYMCA自身はその資金を用意しなくてはならず、その結晶とも言うべき活動がチャリティーランなのです。

△国際地域協力募金横浜YMCAではアジアの人々のための第1回国際協力募金が1978年行われ2000年国際協力募金を「国際地域協力募金」と名称を変更し自然災害の多発する日本国内の被災者支援や「BAPYー子ども支援基金」にも使われるようになっている11月の文化祭の収益もこの募金に献金されている。

△BAPY(確かベイピーと呼ばれている)子ども支援基金(Be A Partner of the Youth) YMCAの野外活動家や日常プログラムに参加したくてもできない子供や、家庭のために参加費援助とを行うもの「Open for ALL」すべての人にYMCAプログラム

をとという熱い願いから始められた。

△横浜 YMCA 会員大会 1988年以来維持会員のための交流、増加を図るため毎年2月11日当代一流の文化人を記念講演者として招聘して実施、開催している。

備考:厚木YMCA健康福祉専門学校(介護福祉科定員40人)子供総合科(定員32人)日本語学科(定員120人)

2019年3月15日



希望の丘に集う我ら

## 監事より一言

この一年「楽しく 気長に じっくりと」のテーマでしたが、皆様いかがでしたでしょうか。前半は移動例会や、YMCAとの合同の活動があり、大変楽しかったと思います。後半は新型コロナ蔓延による自粛でほとんど集会が開けませんでした。まさしく「気長に、じっくりと」になってしまいました。昨年7月に、厚木ワイズメンのITに強い方が、ライングループをつくってくださっており、一部の人たちの間では自粛の中でも、連絡をとりあうことができました。この方の先見の明はまさしくMVPものです。でも、やはり全員の顔と顔の交わりがあり、息遣いを感じるいつもの集会がないと楽しくありません。その日が早く来るように願わずにはられません。